

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 その年のトーナメント戦でユウシヨウした。
- 2 飛行機で荷物をユソウする。
- 3 オウフクの子ケツトを用意する。
- 4 勉強のシュウカンを身につける。
- 5 著名人に出会ったのでサインをもらった。
- 6 友人は名作映画を見て号泣した。
- 7 今日の体育の授業内容は持久走だった。
- 8 実在する人物をモデルにした主人公。

問二 次の空欄 ^{くうらん} A _く E に体の一部を入れて慣用句を完成させなさい。

- | | | | | |
|---------|---------|--------|-------|--------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| E | D | C | B | A |
| にたこができる | がつけられない | の色をかえる | を長くする | がぼうになる |

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ハルジオンとヒメジオンもよく似た雑草として紹介される。

この二つの区別点について、ハルジオンは葉が茎を抱いているとか、茎が中空などと図鑑には説明されている。しかし、ハルジオンとヒメジオンは、生物分類学的にはまったく別の植物である。

ハルジオンもヒメジオンも、北アメリカから日本にやってきた外来植物である。

最初にやってきたのは、ヒメジオンである。ヒメジオンは明治時代に日本にやってきた。当時、延伸していった線路に沿って、各地に広がっていったことから、ヒメジオンは「鉄道草」という別名でも呼ばれていた。ヒメジオンは、タンポポと同じように綿毛で種子を飛ばしていく。キシャの起こす風で分布を広げていく見慣れない雑草は、文明開化の象徴だったのである。

一方、ハルジオンは、大正時代に日本にやってきた。しかし、分布の広がりはずつくりであった。

B スピーディに広がったヒメジオンと、ゆっくり広がったハルジオン。違いを生んだ原因は何なのだろう？

ヒメジオンは、図鑑には「越年草」と書かれている。越年草は秋に芽を出して、冬を越し、翌年に花を咲かせる。年を越すので越年草と呼ばれているが、芽を出してから、一年以内に種子を残して枯れてしまう。

ちなみに春に芽を出して秋までに枯れてしまう植物は、図鑑では「一年草」と書かれている。越年草も一年草も、一年以内に枯れてしまうので、最後には、得られた栄養分のすべてを使って種子を生産する。つまり次の世代にすべてを投資するのである。

一方、ハルジオンは、図鑑では「多年草」と書かれている。

多年草は、花を咲かせて種子をつくるが、完全に枯れてしまうことはなく、自身も生き続ける。そして、年々、株を大きくしていくのである。

多年草は種子をつくるだけでなく、自分の生長へも投資が必要となるから、一年草に比べると種子の数が少なくなる。そのため、種子による増殖は一年草に比べると劣るのである。

それでは、一年草と多年草はどちらが雑草として有利なのだろうか？
これは愚問である。

C 一年草も多年草も、それぞれがその得意を發揮しているのだ。

一年草は、環境の変化に対して強さを發揮する。しかも、予測不能な変化がフキノクに起こる環境が得意である。そういう場所では、生き残ることは大変である。

I、スクラップ・アンド・ビルドの言葉のとおり、破壊の後には、必ず創造がある。そうであるとすれば、スピーディーに世代を更新して、新しい環境に対応していった方がよいのだ。

II、種子しか手段を持たない一年草には、種子のすべてが全滅するリスクもある。

その点、多年草は種子を残しつつ自分自身も生き残るから、保険がかっている。たとえ種子が全滅してしまったとしても、自分自身が残るから、また種子をつくり直せばよいだけなのだ。また、種子から芽を出して大きく生長することは大変だが、多年草は、株が残っているから、すぐに大きく生長することができる。

III、多年草は、自分に投資をするから、その分だけ次の世代への投資は少なくなる。そのため、一年草のように、次々に世代を更新して、環境の変化に適應していくスピード感においては劣る。

IV 一年草と多年草は、それぞれメリットとデメリットがあるのだ。

ヒメジョオンは越年草であるが、越年草は年を越すものの一年以内に枯れるので、「冬型一年草」という言い方もする。すべてを種子に投資して、スピーディーに更新していく戦略である。ところが、である。

ヒメジョオンは、一年以内に枯れずに二年かけて大きくなることもある。

このように一年以上かけて株をじっくり大きくして、二年目に花を咲かせる植物は二年草と呼ばれている。つまり、一年草であるはずのヒメジョオンが二年草のように生長しているのだ。

D このような例は、他にもある。

たとえば、ヒメムカシヨモギもそうである。ヒメジョオンと同じく明治時代に鉄道とともに広がり、同じ「E」の別名を持つヒメム

カシヨモギは、秋に芽を出して翌年に花を咲かせる越年草(冬型一年草)である。ところが、環境によっては、春に芽を出してその年に花を咲かせる一年草(夏型一年草)として、振る舞うのだ。

まったく図鑑どおりではないのだ。これは、おかしいのではないだろうか？

じつは、雑草は、植物図鑑に記載されているのと違った生え方をしていることも多い。春に咲くと書かれているものが、秋に咲いていたり、一メートル程度の草丈と書かれているものが、一〇センチ程度で花を咲かせていることもある。

雑草は、何といい加減な植物なのだろう。

しかし、雑草の立場に立ってみれば、それは、そうである。

雑草が生えるのは、予測不能な変化が起こる場所である。その変化に対応しなければ生き残ることができないから、環境に合わせて自在に変化するのである。

そもそも、一年草や多年草というのは、人間が勝手に決めた分類に過ぎない。いわば、レッテルを貼られているだけなのだ。

図鑑に書かれていることが、人間が思う「あるべき姿」であるとすれば雑草は、そんなレッテルにまったく縛られない。

「F あるべき姿」に囚われないこそが、雑草の強さなのである。

(稲垣栄洋『面白すぎて時間を忘れる雑草のふしぎ』)

問一 —— 線部①く④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中

I

 く

IV

 にあてはまる語句として適切なものを次のアくオから選んで記号で答えなさい。

- ア ただし イ しかし ウ もちろん エ このように オ 一方

問三 —— 線部A「茎が茎を抱いている」とありますが、それに関連して次の質問に答えなさい。
葉や茎といった植物の内部にあって、根から吸い上げた水分を運ぶ管のことをなんといいいますか。次のアくエから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 血管 イ 師管 ウ 道管 エ 消化管

問四 —— 線部B「スピーディーに広がったヒメジオオンと、ゆっくり広がったハルジオン。違いを生んだ原因は何なのだろうか?」とありますが、ヒメジオオンとハルジオンの広がるスピードの違いを生んだ原因は何ですか。本文中から四字でぬき出して答えなさい。

問五 —— 線部C「一年草も多年草も、それぞれがその得意を發揮しているのだ」とありますが、多年草の得意とは、どのようなことでしょうか。次から二つ選んで記号で答えなさい。

- ア 予測不能な環境の変化にも世代を更新して対応する。
- イ 株は枯れずに残るので、すぐに大きく生長することができる。
- ウ 冬を越して翌年の春に花を咲かせるのでスムーズに種子ができる。
- エ 増殖の方法は種子だけではないので全滅のリスクが少ない。
- オ 得られた栄養のすべてを種子に投資することができる。

問六 —— 線部D「このような例」とありますが、それはどのような例ですか。解答用紙にあうように本文中から九字でぬき出して答えなさい。

九字

例

問七 本文中 E に入る言葉を、本文中から三文字でぬき出して答えなさい。

問八 —— 線部F「あるべき姿」とありますが、ここでいう雑草の「あるべき姿」とはどのような姿ですか。本文中の言葉を使って三十字以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

・人間

・レットテル

・図鑑

三

運動も勉強もできて優秀だが少し変わり者の中学二年生成瀬あかりは、地元にある唯一のデパート西武大津店が営業終了すると聞いて「わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」と言い出した。西武大津店では、「ぐるりんワイド」という地元のテレビ番組が営業終了まで毎日生中継を続けるのだが、その放送に映り込むというのである。それからというもの成瀬は毎日西武大津店に行き、西武ライオンズのユニフォームを着てテレビに映り込むようになった。島崎みゆきは成瀬と同じマンションに住み、同じ幼稚園に通い、中学二年生になった今も登下校を共にしている。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

週明けの八月十七日、お盆休みだった部活が再開された。朝九時から十一時半までの気楽なものだ。

「みゆき、この前テレビに映ってなかった？」

同じ部活の遥香が話しかけてきた。

「うん。成瀬に付き合ってる」

遥香は「大変だね」と笑った。

「わたしも見たよ。金曜日だよね？ 西武の写真展のやつ」

瑞音も話に入ってきた。

「え、わたしが見たのは入口の前だったけど。野球のユニフォーム着てたよね？」

そうだ、わたしはなぜこのことに気付かなかったのか。日常的に見ていなくても、たまたまぐるりんワイドにチャンネルを合わせることはあるだろう。二人が見たのは一瞬^Aずつでも、パズルのように組み合わせればわたしのしていることがバレてしまう。

「ほぼ毎日行ってるの。成瀬と」

成瀬に責任を押し付けようとしているが、ユニフォームを着て付き合っているのはわたしの意志である。ドン引きされるかと思いきや、遥香と瑞音は大笑いした。

「毎日中継してるなんて知らなかった！ わたしも行ってみたい」

「わたしも行く」

仲間が増えてうれしいはずなのに、わたしは気が乗らなかつた。成瀬モードと部活モードでは力の入れ方が違うのだ。だからといって二人を拒絶するわけにもいかず、番組が十七時五十五分からはじまることと、中継場所はたいてい正面入口前だが、正確な場所は当日行ってみないとわからないことを伝えた。

今週は適当にサボるつもりだったが、遥香と瑞音が行くとなればわたしも行かざるを得ない。少し早めに着くと、正面入口前に撮影クルーがいてほっとした。成瀬は宣言どおり、ライオンズの野球帽をかぶっている。これをくれたご婦人がテレビで見ているといいなと思った。

「さつき、また知らない人からこれを渡された」

成瀬は左手首につけた青いリストバンドを見せた。

「めっちゃライオンズ好きな人みたいじゃん」

「西武ファンであることは間違いない」

そう言ってミニバットを構える。

「今日、バド部の子が来るかもしれない。わたしと成瀬が毎日来てること話したら、行ってみたって」

成瀬は興味なさそうに「そうか」と言うだけだった。

遥香と瑞音は中継の直前に店内から出てきた。成瀬はすでにカメラに集中している。

「ここでやってんだ」

二人がわたしのそばで足を止めたので、ソーシャルディスタンスを取るよう促した。ここで密になってしまつては明日以降の中継が打ち切られてしまう可能性がある。

遥香と瑞音が少し離れた場所にポジションをとると、レポーターが二人にマイクを向けた。わたしは驚きを隠せなかつた。全身から西武愛を発信している成瀬ではなく、私服姿の女子中学生二人組に話しかけるとは。遥香と瑞音は笑顔で質問に答えている。わたしと二人の間に分厚いアクリル板が出現したかのようだった。

中継が終わり、帰り支度をする。遥香と瑞音は「話しかけられちゃった」と興奮気味に報告してきた。胃のあたりから嫉妬がせり上がってくるのがわかる。「よかつたね」と素っ気なく言つて、成瀬と一緒に帰路について。

「成瀬のほうがインタビューされるべきなのに」

わたしが本音を漏らすと、成瀬は笑った。

「そんなことない。テレビ局はああいう女の子のコメントが欲しかったんだ」

強がりではなく、純粹に受け入れているようだった。その冷静さに腹が立つ。

「せっかくだからインタビュースeitigenとか、もっと映りたいとかないの？」

成瀬は「ない」と即答する。なぜわたしがこんなにムキになっているのかわからない様子だ。わたしは成瀬を取り残し、早足で帰った。

八月十八日、一晚寝たら気持ち切り替わり、遥香と瑞音とはいつもどおり接することができた。きのうの顛末について「まさか話しかけられる

とは思わなかったね」と話したあと、わたしが極力軽い調子で「また行く？」と尋ねると、二人は「もういいかな」と笑った。

わたしも「もういいかな」に気持ちが引きずられ、その日は西武に行くのをやめた。なんとなく成瀬に会いたくない気持ちもあった。中継は正面

入口前から、成瀬は14と書かれたカウンタダウン表示の隣にいる。当然インタビューのマイクは向けられない。

成瀬のように毎日通っているわけでもなく、遥香や瑞音のようにインタビューされるわけでもない。そんなわたしが行く必要はあるのだろうか

考えたら嫌になってしまった。

八月二十一日、中継帰りの成瀬が訪ねてきた。

「どうだった？」

成瀬に訊かれて、「テレビを見ていてほしい」という当初の依頼を思い出した。わたしが行かなくても、成瀬は気に留めていなかったに違いない。

「ちゃんと映ってたよ」

③例によってわたしも毎日見ていた。見なくていいかと思っても、十七時五十分になるともうすぐぐるりんワイドの時間だと気付くのだ。

中継は六階からで、ロフトのファイナルバーゲンの様子を伝えていた。成瀬はほかの客の視線を集めながらしっかり映り込んでいた。

「金曜日は館内から中継するのかもしれない」

その法則でいくと、来週の金曜日館内からである可能性が高い。

「来週から学校だけど、部活ある日はどうするの？」

「間に合うように抜けさせてもらう。ユニフォームも全部持って行って、学校から直行する」

おそらく成瀬は誰からも咎められずに最終日まで遂行するのだろう。

「大変だね」

すっかり他人事ひとごとのように感じる。部活は十八時までだから、途中とちゆうで抜けてまで中継に行くつもりはなかった。

「わたしもリアタイでは見られなくなるけど」

「構わない。これまで付き合ってくれてありがとう」

成瀬はそう言い残して帰っていった。自分から下りたはずなのに、成瀬に外されたような気持ちになる。

(宮島未奈『成瀬は天下を取りに行く』)

*1 ソーシャルディスタンス……新型コロナウイルス感染症が流行したときによく行われた、人と人との間に距離をとって感染を広げないようにすること。

*2 顛末……事件がはじまってから終わるまでのくわしい事情。

問一 ……線部①～③の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれあとのア～エから選んで記号で答えなさい。

① 「気が乗らなかった」

- ア 心配で落ち着かなかった
イ 気持ちが落ち込み、すっきりしなかった
ウ やろうという意欲がわかなかった
エ 他の人のことまで考えられなかった

② 「素っ気なく」

- ア 冷たく無関心な様子で
イ 怒りを何とかおさえた様子で
ウ 深く考えず自然な様子で
エ 素早く急いだ様子で

③ 「例によって」

- ア まじめに
イ いつものように
ウ 予想通り
エ 予想に反して

問二 ——線部A「わたしのしていること」とはどのようなことですか。次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 成瀬と二人で、西武大津店の前でユニフォームを着て野球をしていること。
- イ 成瀬と二人で、西武大津店で行われている写真展を見に行っていること。
- ウ 成瀬と二人で、西武大津店でのテレビの中継放送に映りこんでいること。
- エ 成瀬と二人で、西武大津店の中継をしている「ぐるりんワイド」を見ていること。

問三 ——線部B「わたしと二人の間に分厚いアクリル板が出現したかのようだった」とありますが、アクリル板とは新型コロナウイルス感染症が流行したときに、飛沫防止のためにさまざまな場所で設置された透明な板です。ここでわたし（島崎みゆき）はなぜこのように感じているのですか、その理由を六十字以内で答えなさい。ただし解答には次の語句を必ず使いなさい。

・レポーター ・西武愛 ・成瀬やわたし

問四 ——線部C「ああいう女の子」とは、どのような女の子のことを言っていますか。次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 友人に誘われて久しぶりに西武大津店にやって来たような女の子。
- イ 友人がテレビ中継に映り込む様子を興味本位で見に来たような女の子。
- ウ 友人とたまたま西武大津店にやってきたようなごく普通の女の子。
- エ 西武大津店にそれほど愛情を持っておらず興味もなさそうな女の子。

問五 —— 線部D「なんとなく成瀬に会いたくない気持ちもあった」とありますが、なぜわたし（島崎みゆき）は成瀬に会いたくない気持ちがあったと考えられますか。その理由を述べた次の文の I、II にあう語句を本文中よりそれぞれぬき出して答えなさい。

わたしは遥香と瑞音がインタビューされたことに嫉妬しているのに、

成瀬はそのことを

I (七字)

ようで、

II (二十五字)

様子だから。

問六 —— 線部E「成瀬は14と書かれたカウントダウン表示の隣にいる」とありますが、このカウントが「1」になった日が営業最終日です。西武大津店の営業最終日は何月何日ですか。

問七 本文中の べき と同じ意味・用法の「べき」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。